

1 単元名 「住みやすい街づくりについて考えようーないごて、かごんまの道路は渋滞しちょっとけ?ー」

2 単元の目標

- グラフや表、写真、絵図などの資料を活用して、鹿児島市の交通政策の在り方について、選択・判断するための事実を読み取ることができる。(知識及び技能)
- 鹿児島市の交通政策の在り方について、互いの主張を比較し、利便性と権利、環境保全等の視点を基に多角的に見て選択・判断し、自分なりの交通渋滞の解消法について表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 鹿児島市の交通に見られる社会課題に関心を持ち、これからの交通政策の在り方について、主体的に議論することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「鹿児島市の交通渋滞の様子動画」「交通渋滞の解消に向けた政策の把握」「交通渋滞の解消に向けた政策の影響」を教材として取り上げる。

鹿児島市の交通渋滞の様子を動画として児童に見せることで、どのくらいの長さの渋滞が起きているのか、どのくらいの時間渋滞しているのかを理解することができ、活動への意欲を高めることができる。また、交通渋滞の解消に向けた鹿児島市の政策や、他県や他国の政策を把握することで、どのような政策が有用なのか、どのような観点を重視して政策を行っているのか考えることが期待できる。さらには、交通渋滞の解消に向けた政策の影響を考えることで、最終的に自分自身が「交通渋滞について、自動車の使用を制限する政策を行うべきか、行わないほうがいいのか判断する材料となる。

また、鹿児島市の市街地における交通渋滞は全国で最も高い割合となっていることを取り上げる。鹿児島県と鹿児島市は道路の整備を行うとともに時差出勤や通勤ルートの変更などの呼びかけを行っているが、いまだ解消に至っていない。このことを教材として扱うことで、交通渋滞に対する原因について地理的な視点から知識を主体的に得ようとするとともに、鹿児島市の交通渋滞を減らすために、得た知識をつかって今後の政策について選択・判断するといった、より相手意識をもって活動することができるようになる良さがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、総合的な学習の時間において、「大好き鹿児島」という単元で、鹿児島市の市街地でフィールドワークを行い、鹿児島市の魅力を発見し、発信するという活動を行っている。この活動を通して、鹿児島市への愛着つまり郷土を愛する心の高まりがみられる。市街地の観光地を巡ったり、まちゆく人にインタビューをしたりすることを行い、鹿児島市の良い側面を目の当たりにしてきた。

そこで、今回鹿児島市は交通渋滞の割合が全国ワースト1位という鹿児島市の負の側面を授業で扱うことで、児童たちは、自分たちにとって大好きな鹿児島県が抱えている課題は解決したいと意欲的に学習に取り組むことができると考える。このような点で、この期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、鹿児島市の通勤時の渋滞状況や交通渋滞で発生する弊害について疑問に思ったことを基に「鹿児島市の通勤時における交通渋滞を解消するためにはどうしたらよいか」といった学習課題を設定する。そして、見直しをもった追究ができるようにするために、鹿児島市の交通政策の在り方について選択・判断するために必要なことを話し合う活動を設定する。

次に、鹿児島市の交通渋滞の原因について、鹿児島市の地形と土地利用に着目して追究し、獲得した事実を関連付けて考えることで、鹿児島市は平地が少なく河川や JR の線路によって都市部が分断されているため、人が集まる中心部で交通渋滞が起こりやすいことを捉えることができるようにする。また、交通渋滞の解消に向けた取り組みについて、鹿児島市の取り組みと他県や他国の取り組みに着目して追究し、獲得した事実を統合して考えることで、鹿児島市や他県、他国では、交通渋滞の解消するために、交通渋滞を制限する政策や制限しない政策を行っていることを捉えることができるようにする。そして、交通渋滞の解消に向けた政策の影響について、制限するときと制限しないときの良さや問題を捉え、どのような観点を重視してその政策を行っているのかについて明らかにする。

そして、鹿児島市は通勤での自動車の使用を制限する政策としない政策のどちらを行うべきかについては、人々の利便性や権利、環境保全等の視点を基に議論できるようにする。その議論を踏まえ、制限するならどの程度制限するのか、制限しないのであればどのような政策がいいのかについて自分なりに具体性を持って政策を提案する活動を設ける。

さらには、これらの活動を通して、鹿児島市の抱える問題に貢献できたということを振り返らせ、政策提案以外に自分たちにできることはないだろうかと話し合わせることでこれからの活動にもつなげてくようにする。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

相互性：現在の鹿児島市の様子は、そのまま未来の鹿児島市の姿であり、自分が大人になった時にも住みやすい地域になってしまうこと。

車の利用が環境や健康、安全に影響するなど、交通と生活・環境とのつながりを学ぶ。

連携性：地域の人・行政・学校などと協力して、まちづくりに参加する姿勢を育てる。

ESD で育てたい ESD 資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

解決策を考えるときに、どんな観点を重視すれば住みやすい街になるかを考え、〇〇するとよくなるかもしれないと未来思考を働かせて渋滞のない街づくりを考えることができる。

他者と協力する態度

他者と意見を出し合いながら、よりよいまちづくりについて考えることができる。

つながりを尊重する態度

インタビュー動画などを通して、市役所、警察、学校がつながることで豊かな学びになっていることを自覚し、尊重しようとする。

コミュニケーションを行う力

鹿児島市の人々が快適に過ごせる、自分たちにできるまちづくりについて、意見交流を通して自分の考えを上げる。

進んで参加する態度

地域の高齢者のために自分にできることはないか考え、意欲的に関わりを持とうとしたり、考えを作

ろうとしたりして地域社会に貢献しようとする。

本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

今の交通の在り方が将来のまちの環境や暮らしに影響するため、未来のまちを良くするためにできることを考える必要がある。

人権・文化を尊重する

政策を考える際に、鹿児島市の住む人の権利を無視した政策ではなく、一人一人のことを考えた政策を考える必要がある。

達成が期待される SDGs

11 住み続けられるまちづくりを



4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 鹿児島市の市街地で渋滞が起きる原因について、地形図や地図を見ながら理解している。</p> <p>② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図などを用いてそれらを関連付けながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>① テーマについて選択・判断を行い、自分が重視する観点について表現している。</p> <p>② 資料を基に課題を見出し、住みやすい街づくりについての政策を考えることができる。</p> <p>③ 交通渋滞への対策について、学んだことや考えたことをまとめている。</p>	<p>① 鹿児島市の人たちが快適に暮らせるようにしたいという目的意識を持ち、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>② 自分の考えた政策を友達に納得してもらえるように伝えようとしている。</p>

5 単元の指導計画(全10時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 鹿児島市の交通渋滞の現状を基に、学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市は渋滞の割合が高いね。 ・中には数km渋滞しているところもあるね。 <p>2 学習計画を立てる。</p>	<p>○ 鹿児島市の中心部の通勤時間帯の道路の様子を提示し、鹿児島市が交通渋滞について深刻な課題を抱えていることに気づくことができるようにする。</p>	<p>(ウ)① (主体的)</p>
<p>3 鹿児島市の交通渋滞について追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平地が少ないんだな。 ・多くの川があるんだな・ ・平地に多くの店や職場があるんだな。 ・川や線路を横切るように道路が作られているんだな。 <p>4 交通渋滞の解消に向けた政策を知る。</p>	<p>○ 地形図や道路の活用の仕方が分かる地図を用いて、鹿児島市の街の構造から交通渋滞が引き起こされていることが気づくことができるようにする。</p>	<p>(ア)① (知・技)</p>

<p>・鹿児島市は時差出勤やノーマイカーデーを作っているんだね。</p> <p>・イギリスは、渋滞税を取り入れているんだね。</p> <p>5・6 交通渋滞の解消に向けた政策の影響を考える。</p> <p>・車を制限すると、道路の混雑は解消されるし、排出ガスも減らすことができるね。</p> <p>・制限しない方法は、車より別の移動手段を取るようになる工夫がされているんだね。</p> <p>・どちらの方が鹿児島県にとってより効果的かな。</p> <p>7 鹿児島市の交通渋滞の在り方について、政策として車の使用を制限するかしないかを判断する。</p> <p>・利便性を求めると、車の制限をしない政策が好ましいと考える。</p> <p>・環境のことを考えると、制限した方がよいと考える。</p>	<p>○ 鹿児島市だけではなく、他国や他県の政策を提示し、比較させることで、どのような方法があるのか、それぞれの政策の考え方はどんな観点を重視しているのかを気づくことができるようにする。</p> <p>○ PMIシートを使い、車の制限する方法、制限しない方法のメリット・デメリット、気になる点をまとめることで、自分がどちらがよいかの判断材料となるようにする。</p> <p>○ ピラミッドチャートを使い、自分はどのような観点を重視しているかを明らかにしたうえで、政策について選択・判断できるようにする。</p>	<p>(イ)①② (思・判・表) (ウ)② (主体的)</p>
<p>8・9 判断したことをより具体性を持たせて、政策を提案する。</p> <p>10 活動の振り返りをする。</p> <p>・これからも鹿児島市の交通政策の在り方について考え続けたいな。</p>	<p>○ これまでに活用した資料を使い、自分の考えをまとめることができるようにする。</p>	<p>(イ)③ (思・判・表) (ウ)① (主体的)</p>